

## 平成28年度第2回南三陸町環境審議会 会議録

1 日 時 平成28年度9月7日（水） 午後6時から午後8時30分まで

2 場 所 ベイサイドアリーナ 文化交流ホール

3 出席者

(1) 南三陸町環境審議会委員（11名）

鈴木卓也委員、佐藤太一委員、小野寺寛委員、小野寺瑞穂委員、佐々木正司委員、高橋長晴委員、佐藤俊光委員、高橋一郎委員、山内敏裕委員、工藤真弓委員、小野寺政道委員

(2) 事務局

・南三陸町環境対策課

小山雅彦、星力、山内香、森本裕之、佐々木良輔

・パシフィックコンサルタンツ株式会社

寺田林太郎、北村修一

(3) 欠席者（4名）

阿部司委員、及川吉則委員、齋藤左恵子委員、西城幸江委員

(4) 傍聴者

4名

4 委員長あいさつ

5 会議成立の確認

南三陸町環境基本条例第28条第2項の規定により、委員の過半数が出席していることから会議が成立することを確認。

6 審議事項

(1) 南三陸町環境基本計画（改定）（案）について

(2) 南三陸町環境基本計画（改定）概要版（案）について

関連があるため  
一括審議とする

①事務局より資料の説明

事務局 パブリックコメントを実施した結果、一番多かった意見は数値目標についてであった。

②質疑応答

委員長 6回の策定委員会ですいぶん練られた印象を受けた。

佐藤太一委員 パブリックコメントはどの程度集まったのか。数値目標の設定のほか何が多かったのか。

事務局 パブリックコメントは、26件いただいた。そのうち20件が数値目標でKGIやKPI等の数値を示さないとやる気にならないのではないかとといった意見が多かった。また、自然環境に関すること、ライフスタイルに関すること、環境像や将来像の意味に関することがあった。

佐藤太一委員 内容を踏まえて審議すべきではないか。解釈の差異の確認はないのか。

事務局 パブリックコメントの反映は素案にされている。基本的に内容に沿うものは反映済みである。

佐藤太一委員 相当注目されていることだと思う。パブリックコメントはニュアンス的にはネガティブだったのか。

事務局 ネガティブではなく、このように取り組んではどうかというニュアンスであった。

佐藤太一委員 環境白書を踏まえて設定するという文言でよいのか。

事務局 環境白書では、環境に対しての町の事業の取り組み状況を前年度との比較で数値化しているのがある。それを比較対象としてはどうか。

佐藤太一委員 数値目標のニュアンスがだいぶ違う。数値目標についてクオリティを求められているということである。10年の間に見直しをするためにも指標は必要であるので、数値目標を設定するためにも審議すべきではないか。

事務局 数値目標設定のためには現状のデータが必要であるが、震災によって現状がかなり変わってしまったことやデータを取っているものの把握すらできない状況である。

佐藤太一委員 モニタリングの必要性を計画に中に入れる必要がある

鈴木委員 何を指標とするかはだれが決めるのか。

事務局 総合計画において各課が作成した個別事業の内容が本計画に入っている。今年度はその数値を出ささせていただく。

鈴木委員 環境白書に載せる内容を町民や事業者も入った形で共有する場がないと、皆で目標に向かっていくという形が作られない。官民連携で本計画にそのような体制を作るといふ文言が入るとよそにはない良い計画となる。数値目標、モニタリングについても深く議論する場が持てればよいのではないか。

- 事務局 皆さんのご意見を傍聴できるような構想を持っていることを計画の進行に含めてはどうか。
- 小野寺寛委員 町の総合計画と環境条例との優位性。本計画でも目標を書いて、担当課が重要性を持った取り組みをしてもらえないと環境条例が生きない。環境行政が業績を上げられないのはそこに矛盾があるということである。
- 事務局 最上位計画は総合計画である。総合計画の中で環境に特化した計画をまとめたものが環境基本計画である。個別の事業については毎年の計画遂行状況を確認できる。ただ、環境基本計画の数値目標となると、復興の途上であることと元々の環境状況が把握できていない中でかなり難しいと考えている。
- 鈴木委員 年に一回モニタリングをして公表しチェックする。チェック機構をこの委員会に持てるといいのではないか。
- 事務局 数値は必要であるが、被災地として数値を出すのが難しい状況である。環境に関して復興と併せて考えていくべきではないかということで現在作れる範囲で作成した。数値目標は、9章に現状把握を行うという内容を追記することを提案させていただいた。いずれにせよ官民連携の場は必要だと考えるので、形を検討させていただきたい。
- 佐藤太一委員 できる、できないは環境審議会でするのではないか。町長に諮問できるくらいで議会とは違うが似たような位置にあると思う。議論が足りない。
- 事務局 ご意見を受けて事務局提案であるが、もう一度ご議論いただく場を設けて内容を集約する方向にしてはどうか。
- 佐藤太一委員 最低もう一回揉むべきである。9月の期限を延ばせないか。審議会で否決したらどうなるのか。
- 事務局 本来であれば策定委員会の内容を審議するのが審議会であるが、ここまで進んでしまっているので難しいことと、予算の関係もあり、あと一回の開催となると来週中になる。否決した場合、来年度委託料や報酬等の予算を取り直して、再度作成することとなる。
- 佐藤太一委員 勉強会などをし、審議会の回数を節約しながら2～3ヶ月延長していいのではないか。
- 事務局 環境基本計画は基本的な方向性を定めていくものなので、具体的数値目標等についてはアクションプランや実行計画でとなる。それを作成すると、環境調査など頻度や項目を選んで行ったとしても、年数を重ねるとともに、費用が莫大にかかる。復興に合わせた形で毎年見直すに当たって、審議会などの御意見を踏まえながら検討していく。状況に合わせた対応や方向性を見出しながら計画を立てることは可能である。

- 佐藤太一委員 計画本来に書くべきではないか。
- 事務局 計画には記載している。
- 工藤委員 町民が生活する中で生まれる課題を載せる場がほしい。生ごみから液肥を作る取り組みを教材として、子どもたちに考えさせるようにする。課題把握などは関係機関がテーブルを出し合って丁寧に解決していく。そういうのがあると少しずつ安心して本当のまちづくりができるのではないか。来年からでもいいので予算化し、町・事業者・町民関係なく集まる場を細かいスパンで設けてほしい。
- 山内委員 行政サイドでは、資金が必要となるような、町民ができないことを担うことが多い。そちらを検討してほしい。町民から協力をもらうことが一番である。
- 小野寺瑞穂委員 策定委員会で細かく議論を徹底して、審議会はより専門的な立場から指導的にやるという考え方で進めていたのかなと思う。策定委員会で詰めた原案を審議会でする立場から本来開催はいい。ただ、委員の立場からすると計画を策定するのだから実効性のあるものにしたいという思いがある。目標値を明確にして近づく努力をするという決議をこの審議会で行い取り組みに反映したい。
- 小野委員 10年後の理想的数値は必要である。3つくらいの親しみやすい筋を立てればいいのか。将来的になるべく早く数値目標を入れていただきたい。
- 佐々木委員 審議会は策定委員会の出したものを審議するところである。目標数値を作ったときにPDCAサイクルのようなものでまわすのか、前年度の比較でまわすのか、そういう議論も深める場が多いとよい。
- 佐藤俊光委員 漁協側として養殖可能数量が全体の環境の中から数量を設定するが、現在は見通しが立たない。今後も議論を持つことがプラスになるので、縮小しても場を設けてほしい。
- 鈴木委員 希少動物リストについて足りていないと思う。もっと膨大に貴重な野生動植物があるので、早急にリストアップするか、削除した方がよい。
- 事務局 町の代表的なもので絶滅危惧されているものをレッドデータブックなどで照合し載せていくことでよいか。
- 一 同 了承した。
- 佐藤太一委員 FSCについて、森を守る製品を認定する認証ではない。森の責任ある森林管理もしくはその山林を認定する認証である。木製品に対する認証ではない。
- 事務局 内容を確認し修正する。
- 委員長 審議が足りないという意見もあったことから、審議を鑑みて、委員の中から有志の何人かで時間を取って取りまとめ、町長に答申する形でいかがか。

佐藤太一委員 来年にもつなぐように、次の目標年度もしくは中間年度のときに数値目標を入れるとか、そこに託す。

小野寺瑞穂委員 今日決まったことを文章にするだけの話なので、今日出たことが入っていれば異論はない。

小野寺寛委員 今日の方針が決まれば認めたということで。

事務局 中間年度までは必要に応じて見直し、5年後には数値目標を設定する。9章の計画の進行管理に目標値の設定という文言を記載することでいかがか。なお、融資の方に集まっていたら、文言の修正したうえで答申を決定するというところでよろしいか。

一 同 了承

事務局 有志の方で集まっていたら日程は14日でよいか

委員 14日15時から17時で。

委員長 それでは、有志の方々に修正と確認をしていただき、出来上がり次第委員に郵送する。今回は大変有意義な会議であった。

8 その他

9 閉会